



関わりの変化

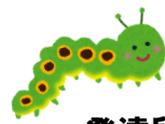
授業をしていると、ちょっと困る事があります。クラスみんなで問題を考えている時、誰かが大きな声で正解や、大きなヒントを言ってしまうことです。問題が解けて、つい嬉しくて言ってしまう。その気持ちも分からなくはないのですが、我慢してほしいところです。ところが最近、つい言ってしまった生徒がいました。でも私が印象に残っているのはその失敗ではありません。「ごめんなさい！」と即座に言える、その謝りっぷりの良さが印象に残りました。

成功体験を積み重ねる事は、人生においてとても大切です。今行き詰っていても、ポジティブに物事を考えられる、何とかなるだろうと考えられます。逆に幼いころから、できそうにない事を求められて失敗ばかり、怒られてばかり、という体験が積み重なると、どうせまた上手くいかないと考えがちになっていきます。

社会に出る直前の今、失敗体験をすべて避けて通る訳にはいきません。失敗は誰でもする、という事を知り、失敗した時どう振舞ったらいいか練習する事が大切になってきます。報告する、謝意を示す、できる限りのやり直しをする。社会に出る前の今、この生徒のように学校で練習して行って下さいね。(①の例)

前号でもお知らせした、講談社から出版されている臨床心理士の前川あさ美さんの「発達障害の子どもと親の心が軽くなる本」のコラムを右に紹介します。

前号では、子どもの発達に合わせて対応を変えてみましょう、とお話しました。基本はすべて左側の項目、“成功体験の多さ”や“他者に対する安心感”なのですが、社会に出る直前の今、表の中の①～③は必要な関わりになってきます。(④は個人的にはケースバイケースかな？と感じます。)



コラム



発達段階によって異なる子育てのコツ

同じ関わりが逆効果になることもあるのです。

小学校低学年まで	思春期以降
成功体験を増やせるような場をつくらう。	失敗体験も与え、失敗することはいけないことではないことを伝えよう。 ①
ひとりでできることを増やせるように指導しよう。	助けが必要な時に「助けて」と言えるように指導しよう。 ②
「すごい」「えらかった」「よくできた」などわかりやすい言葉でほめよう。	「ありがとう」「ご苦労様」「助かった」など感謝とねぎらいの言葉で元気づけよう。
他者に対して安心感をもつ力を育てよう。	他者との関係の中で、自分を守る力を育てよう。 ③
「違い」を補う力を育てよう。	「違い」を理解し、それを生かす力を育てよう。 ④

とてもひとりでは運べない重い物を「ひとりで大丈夫です。」と運ぼうとし、荷物が崩れそうになっても周囲に「手伝って。」と言えず、汗だくで何とかしようとする。人と協力しての作業が苦手という部分があるにせよ、ひとりでする事に価値を置きすぎる行動が多く見られる生徒がいます。幼い頃に言われていた「何でもひとりでできるようにしましょう。」という言葉が誤解して、言葉通り実践し続けているのでは？と感じることがあります。(②の例)

SNS などいろいろな人とコミュニケーションを取ることができる昨今では、全ての人を等しく信用することなく、③の自分を守る力を育てることは急務になってきています。

また、参考にしていただけたらと思います。

みなさま、今年は衛生面に格段に気を遣った大変な年でした。来年はよい年となりますように。

お薦めの本

『ブッタとシッタカブッタ2 そのまんまでいいよ』

小泉吉宏著 メディアファクトリー

主人公のシッタカブッタが、自分自身や周りとの関係で悩む様子が4コママンガで描かれています。

この本には、ブッタという案内役もいます。案内役のブッタは、最初にこんなことを言っています。

「この本は、『こーんなもの見方をしたら人生がもっと楽に感じられるのに…』ってことを書いた本ですよ。」

たくさんの4コマを読んでいく中で、「あれ？今の自分が悩んでいることと同じかも？」
「自分はこう考えていたけど、このマンガみたいな考え方をしてもいいかもなあ」
…という内容に出会うかもしれません。
読み終えた後に、何となく気持ちが軽くなる本です。

この本は、高等特別の保健室にも置いてあります。興味のある人は、ぜひ読んでみてくださいね。(シリーズもたくさん出ています。)

右の4コマは、同シリーズの「ブッタとシッタカブッタ」より

